

第 1 回野幌プロジェクトフォローアップ委員会日程

1 2 : 0 0 (昼食)

1 2 : 4 5 委員会開会
計画部長挨拶
委員紹介
委員長選出
資料説明

1 3 : 2 0 現地確認 (野幌国有林34か、38わ、れ林小班) 徒歩
現地確認 (野幌国有林41ほ、ほ 2、ほ 4 林小班) 車両分乗

1 4 : 4 5 委員会再開
資料説明
質疑、議論・意見交換

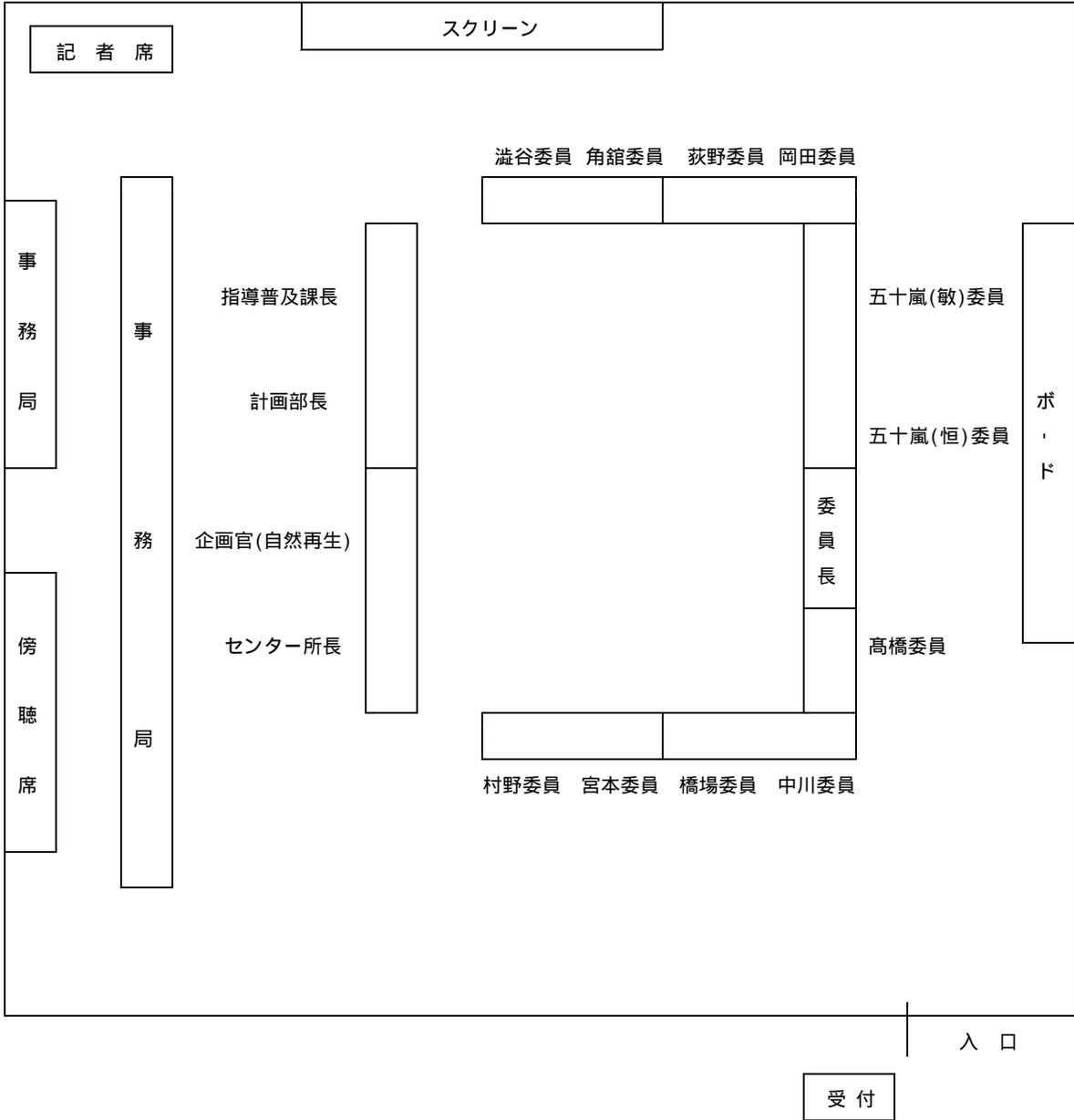
1 6 : 0 0 閉会

第 1 回野幌プロジェクトフォローアップ委員会委員名簿

五十嵐 恒 夫	北海道大学名誉教授
五十嵐 敏 文	フォーラム野幌の森代表
岡 田 健 一	江別市環境課長
荻 野 新 治	江別市野幌自治会会長
角 館 盛 雄	北の森 2 1 運動の会会長
澁 谷 重 昭	江別市立野幌小学校校長
高 橋 邦 秀	北海道大学大学院農学研究科教授
中 川 剛 志	北海道野幌森林公園事務所長
橋 場 一 行	日本樹木医会北海道支部長
宮 本 英 樹	NPO法人 ねおす専務理事・コーディネイター
村 野 紀 雄	酪農学園大学環境システム学部教授

(五十音順)

第 1 回フォローアップ委員会座席配置図



第1回野幌プロジェクトフォローアップ委員会議事次第

平成17年11月15日
北海道立野幌森林公園
自然ふれあい交流館

- 1 開 会
- 2 北海道森林管理局計画部長挨拶
- 3 委員の紹介
- 4 委員長選出
- 5 議 事
 - (1) 平成17年度の取組状況について
 - (2) 今後の取組の展開について
 - (3) その他
- 6 その他
- 7 閉 会

野幌森林公園「森林再生ふれあいプロジェクト」
(略称)野幌プロジェクト
グランドデザイン

資料 5

基本的事項

～都市と大自然の接点～ 野幌の100年前の原始性が感じられる

天然林：100年前の原始性が感じられる森として保護育成

人工林： 生物多様性の保全を志向（将来的には自然林に誘導）
風倒被害を受けた箇所は市民参加型の自然林に戻す森づくりを展開

都市と大自然の接点としての魅力アップのコンセプト

野幌の森の保護育成
・生態系そのものに着目して積極的に保全
・多様な生物相に着目した現況の把握

野幌の森を保護育成するゾーン

野幌の森を楽しむ・学ぶ空間の形成
・自然に親しむ森林の場づくり
・森林環境教育プログラムの充実
・指導者の養成

野幌の森を楽しむ学ぶエリア

野幌の森の魅力高め、持続させる多様な主体の参画
・市民・ボランティア・NPO・学校・企業等の参画

野幌の森をつくるエリア

積極的な保護育成とエリア区分による利用

プロジェクト達成に向けた取組内容

長期:野幌の100年前の原始性が感じられる森づくり
自然環境モニタリング体系の検討・基本方針の策定
多様な生物相に着目したモニタリング調査の実施

中期:人工林での生物多様性のある森づくり
生物多様性の保全に志向、リストアップし自然林に誘導
風倒被害森林での森林再生の試験地の設定

短期:風倒被害地での森づくり・魅力の発信
市民参加型の郷土樹種での自然林に戻す森づくり
野幌森林環境教育プログラムの開発・実践 等

野幌プロジェクト
フォローアップ委員会

モニター・評価の実施
継続的・定期的に情報収集
結果分析、必要に応じプロジェクトの軌道修正に反映
現状改善の評価

平成17年度の取組状況

1 風倒被害箇所の植栽状況等

(1) 「みんなで森林づくりフィールド」

野幌の100年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくりの最初の取組として、北海道森林管理局及び同局石狩地域森林環境保全ふれあいセンター（以下「センター」という。）は、北海道野幌森林公園事務所、林木育種センター北海道育種場、北海道林業技士会、北ぐにの森づくりサークル及びエゾマツ研究会と連携し、平成17年5月18日(水)、石狩署42ほ、へ林小班において、「みんなで森林づくり よみがえれ！「野幌の森」2005」を開催しました。

一般市民の皆さん、野幌小学校の皆さん及び主催関係者総勢240名の参加により、トドマツ・クロエゾマツ・ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモ・エゾイタヤ・ヤマモミジ・キタコブシの8樹種886本と、クリ巨木のクローン苗木2本を植栽しました。

今後、植栽箇所の下刈り等の保育作業については、現地の状況を踏まえ、市民の皆さんと協働して取り組むこととしています。

(2) 「団体型森林づくり」

森林の育成には長年月が必要であるため、市民参加の森林づくりについても、当該年度限りの一過性の体験行為に終始しないことが望ましいと考えています。

このため、風倒被害箇所の森林再生に向けて一定期間継続して参加可能なNPO等ボランティア団体を公募（H17.4.14～5.13）しました。参加団体は現地を所管する石狩森林管理署との間で森林づくりの協定を締結し、植栽、保育等について継続的、計画的に取り組むこととしました。

この取組では、NPO等のボランティア団体、企業、大学等12団体が参加し、現在までに11団体が協定を締結しました。

○「みんなで森林づくりフィールド」の取組状況

植栽日	場 所 (林小班)	面積(ha)	参加人数
17.5.18	42ほ、へ	1.06	240名

○「団体型森林づくり」の取組状況

	団 体 名	場 所 (林小班)	面積(ha)	協定日	活動内容
1	NPO法人 森林遊びサポートセンター	34か	0.53 (0.53)	5.16	植栽
2	北の森21運動の会	41ほ外	4.16 (1.54)	5.26	植栽
3	北海道ガス株式会社	38へ外	2.42 (1.09)	7. 7	植栽
4	社団法人 北海道トラック協会	38れ外	0.85 (0.26)	6.23	植栽
5	NPO法人シーズネット	41ほ ³⁴ 外	0.20	9.13	現地調査
6	札幌もいわライオンズクラブ	51に	0.24 (0.24)	8.25	植栽
7	NPO法人 北海道森林ボランティア協会	42か	1.87	5.30	地拵 一部植栽
8	(有)樹木コンサルタント	40る ³⁵	0.38	9.12	一部植栽
9	野幌森クラブ	36と外	0.21	8. 1	播種
10	レディースネットワーク21	42に外	0.62	9. 9	現地調査
11	酪農学園大学	36ぬ ¹		調整中	現地調査
12	NPO法人 EnVision環境保全事務所	38る外	0.45	9.30	現地調査
計			(3.66)		

注：面積の()の数値は、植栽済み面積である。



「みんなで森林づくりフィールド」
（「みんなで森林づくり よみがえれ！「野幌の森」2005」）



「団体型森林づくり」(北海道ガス株式会社)



「団体型森林づくり」
（NPO法人 北海道森林ボランティア協会）



「団体型森林づくり」(札幌もいわライオンズクラブ)

平成17年5月より各団体による植栽が順次行われ、現在までに植栽面積は3.66haとなりました。

各団体では、一般参加者の募集による植栽、多種類の樹種の植栽、シカ食害防止ネットの試験的設置等、それぞれ特色を生かした活動をしており、野幌の100年前の原始性が感じられる多様な森林づくりに向けた取組を展開しています。

(3) 「野幌森林づくり塾」

市民の皆さんを対象に、植栽、保育、道具の手入れ等森林づくりに関する知識の習得と実体験をしながら森林と人のかかわり等について理解を深めつつ、将来的には積極的な森林ボランティア活動への参加を期待して開講したものです。これまで2回開催し、第1回は、北海道森林管理局及びセンターが北海道野幌森林公園事務所及びNPO法人ねおすと連携し、平成17年6月18日(土)、大沢口周辺の林内及び石狩署38わ林小班において、「野幌森林づくり塾2005」を開講しました。「野幌の原生の姿を知ろう・木の苗を植えてみよう」のテーマで、塾生(13名)・関係スタッフ総勢24名が参加しました。森林の観察、森林再生の方法等に関する講義、風倒被害箇所への植栽等を行いました。

第2回は、北海道森林管理局及びセンターがNPO法人ねおす及び森林再生技術研究所と連携し、平成17年10月15日(土)、大沢口周辺の林内、石狩署38わ林小班及び登満別園地において、「木の種を探そう・木の種を植えてみよう」のテーマで、塾生(29名)・関係スタッフ総勢39名が参加して開催しました。6月に植栽した箇所の生育状況の調査や、種子散布の形態の説明をしつつ、林内での樹木の種子探し、また、育苗についての講義と播種の実体験をしました。

今後の展開としては、「冬の森を歩こう・森林づくりの道具を手入れしてみよう、使ってみよう」のテーマで、第3回を開講する予定(平成18年3月)です。

(第1回森林づくり塾)



(野幌の原生の姿、
巨木の大きさを体感)



(植栽方法について学習)

(第2回森林づくり塾)



(植栽箇所の生育状況の調査)



(育苗についての講義)

(4) 国有林の取組状況

既設の駐車場、歩道等から離れ、市民参加による森林再生活動が困難な風倒被害箇所については、現地を所管する石狩森林管理署が対応しており、現在までに植栽面積は13.08haとなりました。

今後、必要箇所の植栽をするとともに、植栽箇所の保育等に努め、現地の状況を考慮しながら自然性の高い森林に誘導していくこととしています。

(5) 天然更新の状況

集中的に風倒被害が発生した大きなギャップ箇所については、早期に多様な樹種・樹冠層から成る森林を再生していく観点から、多様な樹種の植栽と天然更新を組み合わせた森林づくりに取り組むこととしています。

森林再生の取組を実施している箇所では、エゾイタヤ、センノキ、ミズナラ、ホオノキ、ナナカマド等の天然生稚樹の発生が見られ、現在のところ、天然更新はほぼ全ての箇所でおおむね良好な状況であると考えられます。

○国有林植栽箇所 53は林小班



2 「調査研究の場」の設定等

(1) 設定の考え方

人工林の風倒被害箇所の一部については、研究教育機関等と連携しつつ、恒久的な森林再生の試験地として設定するとともに、モニタリングを実施して風倒被害後の更新メカニズムの解明、今後の森林再生活動に反映させるなどの観点から、風倒被害木の搬出等の処理を一切行わず、風倒被害時のまま保存することとして石狩署46は、に林小班に「調査研究の場」を設定しました。

(2) 協定の締結等

風倒被害時のまま保存している「調査研究の場」をフィールドにして風倒被害箇所の森林再生等の調査研究に資するとともに、その成果を今後の森林再生活動に反映させていくこと等を目的に、現地を所管する石狩森林管理署と北海道大学大学院地球環境科学研究科の間で、「野幌自然休養林における風倒被害箇所の森林再生等の調査研究に関する協定書」を締結(平成17年8月1日)しました。

また、当該調査研究の成果のひとつが、平成17年11月7日、日本森林学会北海道支部大会において、北海道大学大学院・春木助教授等により、「野幌国有林の造林地における風害後の生存木および稚樹の状況」と題して発表されました。

○「調査研究の場」46は、に林小班 (約1ha)



外来種(ニセアカシア)の更新(侵入)状況

1 大正時代の人工植栽箇所

植栽年度	林小班	面積(ha)	植栽本数
大正10年	40る 1	—	118
大正10年	40る 2	0.06	200
大正 8年	40る 5	0.10	239
大正 8年	40る 6	0.03	100
大正 5年	41ほ12	0.10	431
(萌芽林)	41ほ25	—	—
大正 2年	41ほ28	0.05	158
大正 2年	41ほ31	0.025	83



2 17年度植栽済み箇所における更新（侵入）状況

41ほ林小班外中央線沿い風倒被害箇所（「団体型森林づくり」の植栽箇所）においては、特にニセアカシアの更新（侵入）が著しい状況です。

41ほ4林小班で調査を実施した結果、51,600本/haものニセアカシアが出現しています。

3 植栽箇所における今後の取扱い

17年度植栽済み箇所のうちニセアカシアの更新（侵入）が見られる箇所においては、下刈り時等にニセアカシアを刈る、または、抜く措置が必要と考えています。

残し幅のニセアカシアについても除去することに努める必要があります。

なお、積極的にニセアカシアの除去に協力していただける団体については、他団体の植栽箇所等においても除去作業の協力を依頼したいと考えています。



ニセアカシアは野幌の郷土樹種ではなく、野幌の100年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくりに取り組むこと等の観点から、ニセアカシアの取扱いについては、関係機関等との調整と連携を図りながら、大正時代の人工植栽箇所も含めて適切な措置が必要と考えています。

今後の取組の展開

1 「野幌自然環境モニタリング検討部会」(仮称)の設置

野幌の100年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくりに反映させるため、植栽、保育等の取組に加えて、今後何を指標に、誰がどのようなモニタリングをしたらよいか、モニタリングの項目・方法・実施体制や、市民参加による対応も可能な調査項目・方法等も含めたモニタリング体系の検討等を行うことを目的に、「野幌自然環境モニタリング検討部会」(仮称)の設置(学識経験者を中心に構成)を考えています。

「野幌自然環境モニタリング体系」の検討、基本方針の策定
野幌の100年前の原始性が感じられる自然林を目指した森林づくりに資することを目的に、モニタリングのあり方、実施方法等に関する基本的な考え方を検討し、とりまとめることが必要と考えています。

当面のスケジュール

- (17年11月頃) 今日までに蓄積されてきた野幌の自然、森林、動植物、利用状況等に関する調査研究資料、文献を収集・整理。
- (18年2月頃) 「野幌自然環境モニタリング検討部会」(仮称)の開催
 - ・実施項目、実施方法、実施体制等の検討
 - ・モニタリング体系の基本方針(案)の検討
- (18年4月以降) 本検討部会を2回程度開催し、基本方針の策定
- (18年11月以降) フォローアップ委員会に報告
- (19年度以降) モニタリング等を開始

2 「野幌森林再生活動連絡会」(仮称)の設置

「団体型森林づくり」に参加する団体等相互の情報交換、各種取組状況の情報の共有化等の場として、「野幌森林再生活動連絡会」(仮称)の設置を考えています。また、本連絡会の開催については、来年1月頃を予定しています。

3 森林環境教育の展開

野幌の森林の魅力の普及啓発、森林再生の取組及び森林と人のかかわり等に関する理解の醸成、子どもたちの「生きる力」の育成等に資するため、野幌の豊かな森林環境を生かした様々な自然体験、自然学習、森林教室等を、自然ふれあい交流館、NPO等との連携や、「野幌森林づくり塾」等を通じて行いたいと考えています。

4 案内板等の整備

野幌の森林内には各種様々な案内板、標識等がありますが、老朽化していたり、昨秋の台風被害により、現地の実態と異なる案内板等が見られます。

このため、現地の案内板等の現況を把握するとともに、関係機関との調整と連携を図りながら、公園利用者の便に供するものに順次整備していきたいと考えています。



札幌大谷第二幼稚園・NPO法人ねおす等と連携しながら作成した森林環境教育ガイドブック(「もりのなかでこどもはかがやく」)

現地確認資料

3.4 林小班 0.53ha
NPO法人森林遊びサポートセンター（団体型森林づくり）

5月18日～5月28日 植栽
植栽樹種 トドマツ、ヤチダモ、ヤマモミジ等 580本

森林遊びサポートセンター



3.8 わ林小班 0.39ha
野幌森林づくり塾

6月18日 植栽
植栽樹種 トドマツ、ミズナラ、カツラ、ハルニレ等 421本

野幌森林づくり塾



3.8 れ林小班 0.26ha
社団法人北海道トラック協会（団体型森林づくり）

6月28日 植栽
植栽樹種 トドマツ、アカエゾマツ、ミズナラ等 260本

北海道トラック協会



4 1 ほ、ほ 2 , ほ 4 林小班 1.54ha
北の森 2 1 運動の会 (団体型森林づくり)

5 月 29 日 植栽

植栽樹種 トドマツ、アカエゾマツ、ケヤマハンノキ等 2,000本
(ミズナラ、オニグルミ播種 800個)

北の森 2 1 運動の会



ニセアカシア更新 (侵入) 状況

植え幅の苗間及び林縁の母樹周辺等にニセアカシアの稚樹が繁茂。

調査の結果 : 51,600本 / ha

ニセアカシア更新状況

